

ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

	2009年	2010年	2011年	
①人口:2,956万人(2012年1月1日)	④実質GDP成長率(%)	8.1	8.5	8.3
②面積:44万8,900k㎡	⑤消費者物価上昇率(前年12月比,%)	7.4	7.3	7.6
③1人当たりGDP:1,572米ドル(2011年)	⑥失業率(%)	0.4	n.a.	n.a.
	⑦貿易収支(100万米ドル)	2,484.3	2,768.9	n.a.
	⑧経常収支(100万米ドル)	2,198.2	2,297.4	n.a.
	⑨外貨準備高(100万米ドル,期末値)	11,152.7	n.a.	n.a.
	⑩対外債務残高(グロス)(100万米ドル,期末値)	3,996.3	n.a.	n.a.
	⑪為替レート(1米ドルにつき,スル,期中平均,公定レート)	1,465.63	1,586.23	1,787.60

[出所] ①②④⑤:国家統計委員会, ③:IMF, ⑥~⑩:欧州復興開発銀行(EBRD), ⑪:ウズベキスタン中央銀行

2011年のウズベキスタン経済は5年連続して8%を超える成長となった。特に自動車の生産が好調で乗用車は過去最高の22万台に達した。ロシアやカザフスタンへの自動車輸出増加が牽引する一方で、輸出額は15.4%増となった。対内直接投資は減少したもようだが自動車や繊維関連への投資が引き続き行われている。日本からは輸出が発電所関連分野で大幅に増えたが投資では目立った動きはみられない。

■底堅い生産増加で8%超成長を継続

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2011年の実質GDP成長率は8.3%を記録した。漸進的な経済運営によって2007年に9.5%成長を達成して以降、リーマン・ショックや欧州債務危機などの世界的な景気後退局面においてもその影響を最小限にとどめ、8%超の高成長を5年間続けている。

部門別では鉱工業が6.3%増、農業が6.6%増、建設が8.5%増と、生産面で底堅い成長を続けた。鉱工業部門で、燃料に次いで大きなシェアを占める機械・金属加工では12.2%増を記録した。GMウズベキスタンによる自動車生産が好調で、特に国内販売では2012年2月の時点で納車待ちが10万台を超え、同年内で納車できる契約は上半期中に終了したといわれるほどである。さらにロシアやカザフスタンなどへの輸出が伸びたこともあり、2011年の乗用車生産台数が過去最大の22万1,455台を記録した。食品加工でも砂糖やパン、小麦粉などが大幅増となったことで13.1%増と、すべての品目でプラス成長を示した。軽工業では綿繊維が109万9,500トン(1.4%減)にとどまったが、11年からの5カ年産業発展プログラムで最重要品目とされた靴下は3.6倍となった。原綿は348万3,500トン(2.9%増)とほぼ例年並みであった。他方、同部門で最大のシェアを占める燃料では既存施設の老朽化などから原油生産(ガスコンデンセートを含む)が前年比7.7%減と、公式統計が残る1999年以降、12年連続で減産が続いている。ガソリンの生産でも2年連続の減産(6.6%減)となったが、石炭の生産が5.9%増だったこ

とから全体では、ほぼ前年並みの0.3%増となった。

政府は2012年のGDP成長率を8.2%と見通している。政府主導による投資が続いている。また、中小零細企業向けの統一支払い税が2011年中に7%から6%に引き下げられたことに加え、11年12月には中小の製造業者に対してはさらに1ポイントの減税措置が講じられた。中小企業による生産活動と輸出を奨励する施策を継続して実施・強化することで、高成長の維持を図ろうとしている。2012年の成長率について国際機関ではIMFとEBRDが7.0%、世銀とアジア開発銀行が8.0%と予測している。

■機械・設備類の輸出が大幅に増加

国家統計委員会によると2011年の輸出(サービスを含む)は前年比15.4%増の150億2,720万ドル、輸入は14.5%増の105億990万ドルだった。輸出を品目別にみると、前年に輸出総額の4分の1を占めていたエネルギー資源・石油製品がなお最大品目ではあるが、原油の減産に伴って前年比6.6%減少し、シェアは18.5%にまで縮小した。他方、増産著しかった食料品は57.9%増と、全体に占める割合も前年の9.7%から13.2%へと拡大した。自動車を含む機械・設備の輸出は39.6%の大幅増を示した。自動車の最大輸出相手国であるロシアにおけるGMウズベキスタン製の自動車販売台数は、前年より約25%増加し、9万2,778台にまで伸びた。

輸入は、国内消費や輸出増に支えられた自動車向けなどの部品輸入が大半を占める構造に変わりはなく、機械・設備合計では7.7%増で全体の41.3%を占めた。ま

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入

(単位:100万ドル, %)

輸出				
	2010年		2011年	
	金額	金額	伸び率	構成比
ロシア	4,154.8	4,405.5	6.0	29.3
カザフスタン	886.5	1,673.2	88.7	11.1
中国	931.8	1,302.2	39.8	8.7
トルコ	722.5	910.2	26.0	6.1
アフガニスタン	655.6	797.7	21.7	5.3
イラン	595.4	378.4	△ 36.4	2.5
フランス	88.6	220.3	148.6	1.5
ウクライナ	184.5	180.0	△ 2.4	1.2
トルクメニスタン	120.7	168.6	39.7	1.1
韓国	164.0	142.5	△ 13.1	0.9
日本	16.5	15.7	△ 4.8	0.1
輸出総額	13,023.4	15,027.2	15.4	100.0
輸入				
	2010年		2011年	
	金額	金額	伸び率	構成比
ロシア	1,988.0	2,282.8	14.8	21.7
韓国	1,457.6	1,485.6	1.9	14.1
中国	1,252.0	1,294.5	3.4	12.3
カザフスタン	997.1	1,097.6	10.1	10.4
ドイツ	442.6	517.6	16.9	4.9
ウクライナ	378.2	485.9	28.5	4.6
ブラジル	231.6	299.8	29.4	2.9
トルクメニスタン	148.5	285.7	92.4	2.7
トルコ	244.8	277.4	13.3	2.6
米国	132.1	177.6	34.4	1.7
日本	106.0	147.1	38.8	1.4
輸入総額	9,175.8	10,509.9	14.5	100.0

[注] サービスを含む。財については、輸出はFOB、輸入はCIF。サービスについては国際収支ベース。

[出所] ウズベキスタン国家統計委員会。

た、エネルギー資源・石油製品も天然ガス価格の高止まりなどにより29.3%の伸びを示し、前年の6.0%から8.1%へシェアを高めた。

相手国別のシェア(往復)をみると、引き続きロシアが最大で貿易額は8.9%増加したものの、シェアは27.7%から26.2%へと低下した。一方、カザフスタン向けの輸出額が88.7%増、貿易総額でも47.1%増と大幅に増加し、中国を抜いて第2位の貿易相手国となった。カザフスタン向けの増加要因は、乗用車の輸出増とみられる。カザフスタンがロシア、ベラルーシと構成している3カ国関税同盟が発効し、同盟域外から輸入される多くの製品に対する関税が引き上げられたが、ウズベキスタンの製品はCIS諸国間の自由貿易協定(FTA)により関税が免除されるため、価格優位性が高まったとみられる。カザフスタンのコンサルティング会社クンセプトの発表では、2011年のウズベキスタンからカザフスタン向け乗用車輸出台数は67.5%増の3,829台で、同国の同年の総販売台数ランキングの乗用車部門で、ウズベキスタン製の乗用車が3位(セダンタイプ)と11位(ミニタイプ)に入ったと報じられている。

2011年の固定資本投資は前年比12.5%増の107億ドルで、そのうち、外国からの投資の割合は25.1%で、前

表2 ウズベキスタンの対内直接投資の推移
＜実行ベース、ネット、フロー＞

(単位:100万ドル)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
対内直接投資額	705	711	842	1,628	1,403

[出所] 欧州復興開発銀行(EBRD)「Transition Report 2011」。2010年は推定値、2011年は予測値。

年比3.7ポイント減となった。他方、EBRDによると対内直接投資額(実行ベース、ネット、フロー)は13.8%減の14億300万ドルとなった。主な投資案件としては、GMパワートレインによる自動車エンジン製造工場への前年からの投資の継続(5億2,200万ドル)、インドラマによる綿糸生産工場設立(4,000万ユーロ)、スイスのリーターによる紡績機工場設立(400万ドル)といった、輸出産業の育成に向けた誘致の成功事例が目立った。

■FDI拡大に向けて外国企業にヒアリングを実施

日本側貿易統計をドル換算すると、2011年の対ウズベキスタン輸出額は前年比3.0倍の2億3,314万ドル、輸入額は71.9%減の4,816万ドルであった。輸出は機械(HS84類)と電気機器(HS85類)の増加が際立っている。これらはナボイ火力発電所向けのガス・スチームタービンや、タシケント火力発電所のコジェネ実証プラント向けの発電機・同部品などの輸出によるとみられる。輸入は前年比72%減の未加工の金が輸入総額の98%を占めた。

日本からの投資は通信事業とバス・トラック組み立て分野で合弁事業が、また建機で100%出資の販売現地法人が設立されているがそれ以外に目立った動きはみられない。2012年6月時点の進出日系企業数は18社である。日本銀行の統計によると、2011年のウズベキスタン向け直接投資の計上はなかった。

外国投資誘致を進めたいウズベキスタンでは、進出済みの日本企業を含む外国企業や外交団、国際機関など約5,000社に対して、自国の魅力と投資誘致に向けた課題を把握しようと2012年初にアンケートを実施した。「投資先としての魅力」では、3,000万人という人口の多さと政治的な安定、税制面での優遇措置、原材料の調達のしやすさなどが挙げられる。一方、「ビジネス上の課題」として、銀行取引の困難さ、融資の受け難さといった金融関連とガスや電力の安定供給といったインフラ面の整備を求める声が多かった。経済特区の新設や投資家優遇策の適用範囲緩和といった新政策に加えて、かねて指摘され続けている銀行部門での制度面と実務面の運用乖離をなくすことができれば、日本企業にとって魅力ある戦略市場と位置付けられることが期待できよう。

【参考資料】

付表 1 ウズベキスタンの主要品目別輸出入構成<金額ベース>
(単位:%)

輸出			
品目	2010年	2011年	
	構成比	構成比	伸び率
エネルギー製品	24.8	18.5	△ 6.6
食料品	9.7	13.2	57.9
サービス	9.1	11.8	32.7
綿繊維	11.3	9.0	△ 14.3
鉄鋼・非鉄金属	6.8	7.4	24.8
機械・設備	5.5	6.7	39.6
化学品・プラスチック製品	5.1	5.6	26.8
その他	27.7	27.8	15.9
合計	100.0	100.0	
輸入			
品目	2010年	2011年	
	構成比	構成比	伸び率
機械・設備	44.1	41.3	7.7
化学品・プラスチック製品	14.3	13.3	10.3
食料品	10.9	12.4	35.0
鉄鋼・非鉄金属	8.4	8.1	14.7
エネルギー製品	6.0	8.1	29.3
サービス	4.7	5.3	14.5
その他	11.6	11.5	18.1
合計	100.0	100.0	

〔注〕 品目別の金額の詳細は未公表であるが、金額ベースの伸び率は公表されている。

〔出所〕 ウズベキスタン国家統計委員会。